第 34 回移住者インタビュー

『舞台を通して出来た気仙とのつながり』

みんなのしるし合同会社（イベント制作）

本間　理子 さん

本間　理子（ほんま　りこ）さん
北海道中富良野町出身
イベント制作

インタビュー実施日：2023 年 8 月 31 日

ご出身と現在の取組について教えてください。

北海道の中富良野町です。「北の国から」で有名な富良野市の隣町です。現在は、フリーランスで舞台監督、舞台スタッフ活動をしており、その活動に関連して、大船渡市のみんなのしるし合同会社から業務委託を受けて、イベントの制作や舞台監督、助手などを行っています。

現在のお仕事にもなっている「舞台」に出会ったきっかけは？

「北の国から」の脚本を手掛けた倉本聰さんが地元で作った「富良野塾」という、シナリオライターや俳優のための養成プログラムがあったことがきっかけかなと思います。その富良野塾は、近隣の農家で働いた収入を生活費として、共同生活をしながらお芝居について学んでいくというものです。

現在は閉塾していますが、そのＯＢ、ＯＧさんによって結成された演劇集団が地元で定期的に公演をおこなっていて、その公演を見に行ったのがきっかけかもしれません。

後は、中学校や高校の学園祭のときに、富良野塾のＯＢ、ＯＧさんが指導にきてくださったこともあり、お芝居って面白いなと思っていました。

そのような環境で育ち、大学生になったときに、友人から「演劇サークルに入ろう」と誘われました。結局その友人はサークルに入りませんでしたが(笑)。４年間、演劇サークルの活動に熱中しました。

大学では経済学を専攻していて、私の学部では、就職先は銀行員や公務員がほとんどでした。これまで自分が取り組んできたことや、この先やりたいことを踏まえて就職先を考えたとき、自分の将来を思い描きにくかったので、「何を仕事にするのか」を考えたとき、「舞台」を仕事にすることを決め、東京の会社に就職しました。

ただ、舞台の仕事を学ぶことや、舞台に携わる機会の多さから東京に就職したので、東京にずっといることはないだろうなあとも思っていました。

気仙地域に来ることになったきっかけは？

東京で舞台関係の会社で働いていて、今後の活動に悩んでいたときに、現所属のみんなのしるし合同会社の前川さんに会う機会があり、「岩手県の気仙で映画の撮影をするから来てみない？」と言われたことがきっかけです。

「いのちてんでんこ」という東日本大震災を題材にしている作品で、震災の悲惨さを伝えるという意味もありますが、「災害が起きたら、まず逃げること」や「お祭り」がもたらすコミュニティ、「苦境を乗り越える力」を伝えることに重きを置いている作品だと思っています。

この作品は被災された方の証言をもとにして作られた作品なので、作品の撮影・制作を通して、被災された方の言葉を知ることができましたし、震災の被害状況や、気仙地域にお祭りが文化として根付いていて、それがコミュニティになっていることを知る機会になりました。

また、東日本大震災について、これまでの抱いていた思いから変化もありました。

映画の撮影が終わり、東京へ戻った後、現所属の前川さんに「三陸国際芸術祭のプログラムとして、大船渡市で行われる、三陸ブルーラインプロジェクトのイベント制作をやってみない？」と、お声掛けいただきました。その後、陸前高田市の知り合いの部屋を間借りして、気仙での暮らしがスタートしました。

大船渡市でのブルーラインプロジェクトを進めていくにあたり、大船渡市に住み、より地域の方と関われる環境がいいな、と思っていたときに、県の「いわてお試し居住体験事業※」を見つけて、居住期間の１年という時間も私にピッタリだなと思い、大船渡市に引っ越しました。

※いわてお試し居住体験事業

岩手県外から岩手県へ移住定住を検討している方向けに、家電等を整備した県営住宅を一定期間提供する制度。

https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/1021252/1065332.html

三陸ブルーラインプロジェクト、どんなことに取り組まれたのですか？

まず、三陸ブルーラインプロジェクトとは、「ウォールアートで伝える、つなぐ、祈る。」をコンセプトに、大船渡市民の皆様をはじめ、参加いただいた方々とワークショップにて作品を製作し、防潮堤に展示するというプロジェクトです。

展示する内容は、大きく分けて２種類あります。ワークショップで製作した作品と、もう一つ、想い(言葉)を刻んだタイルです。岩手や東北にゆかりのある詩人の詩を刻んだものや、プロジェクトに対して支援していただいた方の想いや言葉を刻みました。生年月日を刻む方、ご家族の名前を刻む方、メッセージを刻む方、お一人お一人の想いがこもったタイルを読みながら、そしてワークショップの作品を見ながら歩いていると、本当に様々な思いに駆られました。周りが無音になる様な感覚でした。

イベント制作についてもまだまだ勉強中の身ですので言葉が正しいか自信がないですが、全てにおいて段取りをしていくというイメージかなと。段取りというと無機質に聞こえるかもしれませんが、滞りなく進むように、そして関わってくださった方々が喜んでくださるようになんでもやるという感じがしています(笑)

大船渡に来たばかりで、制作の仕事も勉強しながらという状態で至らない点が多く、沢山の方にご迷惑をおかけしてしまったと、今思っても反省が多いです。こんな簡単な言葉で表せるものではないのですが、本当に沢山の方に助けていただきました。

三陸ブルーラインプロジェクトの様子

完成した作品

県のお試し居住体験やその他の助成金は自分で見つけましたか？

　県のお試し居住体験は知り合いから聞きました。

　東京から陸前高田に移住するタイミングで、家具を手放したので、家具付きなのが嬉しかったです。布団は自分で用意が必要なので注意です！

　県の移住支援金とかも自分で調べて見つけましたが、要件が合わずに使えませんでした。

気仙地域のイメージはどうでしたか？

　撮影で、気仙の景色をたくさん見てきたので、いよいよあそこに住むんだなと思いました。地元や、これまで過ごした場所は海が遠かったので、海の近くで過ごすことで、新しく環境が変わるなと思いました。

　東京にいたころは、建物がいっぱいあって、満員電車で通勤して…と疲れることが多かったです。そういう点で気仙地域は自然豊かで、生活に困らない程度の環境があるので、心が落ち着きました。

　陸前高田市は、移住した当時も震災の被害が見える場所がたくさんありましたが、大船渡市のイメージは陸前高田市のイメージとは少し違いました。

　もちろん震災の被害が見える場所はありますが、復興後の街並みを見て、街ができているなと思いました。

大船渡市に移住した後、コミュニティで苦労したことは？

　大船渡に引っ越したときにブルーラインプロジェクトを進めていくにあたり、地域の人たちと一緒に進めていきたい、地域の人に参加してもらいたいという思いがありましたが、一方で誰を頼ったらいいのか分からないことが多かったです。ただ、直接お会いして、力を貸してほしいですとお願いすると優しく協力してくれました。

　地域の方と積極的に挨拶や日々の会話はしたほうがいいと思います、お祭りに参加するのもおすすめです！と言いながら、私が最近特に意識していることです！

　知り合いの人がその知り合いの人に繋いでくれることもあるので、人に頼ることは大事だと思います。

気仙地域の好きな景色はどこですか？

国道 45 号線を通るときに大船渡魚市場から大船渡碁石海岸ＩＣあたりで見える海の風景です。他の場所だと赤崎町の太平洋セメントをはじめとした工場地帯です。いつ通っても異世界に迷い込んだ気持ちになります。

国道 45 号線からの景色

今後の目標とやりたいことを教えてください！

絶賛、考え中です(笑)。

強いて言うなら、後悔のないように生きたいと思っています。

お試し移住の期間も、あと少しで１年が経ってしまうので、住居のこと含めて考え中です。

移住を考えている方にメッセージをお願いします！

あんまり後先を考えすぎずに、「機会」と「人のつながり」があれば、考えすぎずに移住してみるのもいいと思います。

今は、場所にとらわれない仕事も増えてきていますので、「その土地の惹かれること」や、「人とのつながり」、「どうしてもその土地でやりたいこと」があるのであれば、考えすぎずに移住してみるのもいいと思います。